



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

証券コード：3741

2006年3月期決算 説明資料

2006年5月18日

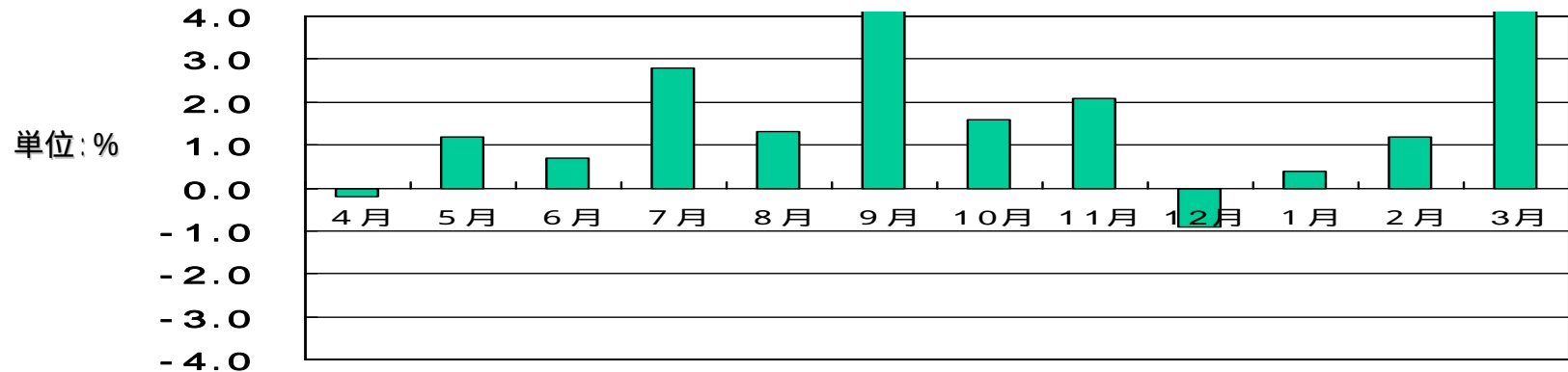
2006年3月期 決算概要

事業環境とトピックス

2006年3月期の事業環境

IT需要の伸びは**前期比で増加率は高くないものの全体的には堅調に推移**

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)



お客様からの**厳しいIQCD改善要請**が依然として続いていた

Q:品質 C:価格 D:開発期間

2006年3月期のトピックス

2005年9月01日 JASDAQ制度信用銘柄となる

2005年9月26日 JASDAQ貸借銘柄となる

2006年3月期の総括

2006年3月期の成果

主体的ビジネスの核となるニューエレメントの品揃え充実

位置情報サービス技術の製品化完了(製品名: airLook)

地上デジタル放送技術の製品化完了(製品名: airCube)

今後の成長が期待できるワイヤレスBFへのシフト

競争優位が確保できる携帯電話端末の新要素技術のノウハウ獲得

2006年3月期の反省

前年同期比「**増収増益**」だが、中間、通期業績見通し未達

ワイヤレスBFで開発期間の延長による不採算、機会損失が発生

研究開発・製品開発に経営資源を投入

今後に期待できる**前向き**の**成果**が**得られた**期

損益計算書

単位:百万円

	2006年3月期	2005年3月期	増減比率
売上高	2,407	2,373	1.4%
売上原価	1,774	1,754	1.1%
売上総利益	632	619	2.1%
販売管理費	417	473	11.8%
営業利益 (営業利益率)	214 (8.9%)	146 (6.2%)	46.8% (2.7ポイント)
経常利益	229	118	93.3%
当期純利益	135	66	105.0%

売上原価 稼働率上昇による外注費の増加

販売管理費 中心的な研究開発テーマが製品化段階に移行したことによる研究開発費の減少
経費節減と業務効率化などによる人件費の減少

営業外損益 前年同期のJASDAQ上場関連費用がなくなった
長期性預金による受取利息の増加、補助金収入の発生

貸借対照表

単位:百万円

	2006年3月31日	2005年3月31日	増減
流動資産(百万円)	2,454	2,553	98
固定資産(百万円)	1,335	1,086	249
流動負債(百万円)	393	332	60
固定負債(百万円)	166	166	0
純資産(百万円)	3,230	3,140	90
総資産(百万円)	3,790	3,639	151
株主資本比率	85.2%	86.3%	1.1%
流動比率	623.4%	766.9%	143.5%
固定比率	41.4%	34.6%	6.7%

- | | |
|----------------|---|
| 流動資産の減少 | 長期性預金の預入による減少 |
| 固定資産の増加 | 製品化完了に伴う販売用ソフトウェア資産の増加
長期性預金の預入による増加 |
| 流動負債の増加 | 課税所得の増加に伴う未払い法人税の増加 |

キャッシュフロー計算書

単位:百万円

	2006年3月期	2005年3月期	前期比
営業活動によるキャッシュフロー	303	80	223
投資活動によるキャッシュフロー	256	364	107
財務活動によるキャッシュフロー	60	693	754
現金及び同等物の増減額	13	409	423
現金及び同等物期末残高	1,633	1,647	13
参考)長期性預金	600	400	200
参考)現預金 + 長期性預金	2,233	2,047	186

営業キャッシュフロー 業績改善により前年同期より増加

投資キャッシュフロー 長期性預金への振り替え2億円により減少

財務キャッシュフロー 前年同期には公募増資と第三者割当増資があり、当期減少

BF別の状況

ビジネスフィールド	2006年3月期		2005年3月期		前期比 (%)
	売上高(百万円)	構成比(%)	売上高(百万円)	構成比(%)	
モバイルネットワーク	369	15.3	422	17.8	87.5
ワイヤレス	1,154	48.0	862	36.4	133.8
インターネット	440	18.3	429	18.1	102.6
社会基盤システム	171	7.1	345	14.5	49.6
宇宙先端システム	259	10.8	304	12.8	85.2
その他	12	0.5	9	0.4	122.0
合計	2,407	100.0	2,373	100.0	101.4

モバイルネットワーク

ワイヤレス

インターネット

社会基盤システム

宇宙先端システム

その他

基幹ネットワーク技術アプリケーション案件減少

豊富な商談に恵まれ戦略展開も可能となる

新要素技術実装に多くの経営資源投入

商談は豊富、大型の技術アプリケーション受注

業績安定化に向けた慎重な受注判断

大型案件開始の遅れ

Karearea販売に airLook,airCube が追加

利益面は堅調だったが前期を下回る

売上高大幅増加

利益面は期待を下回る

売上高微増、利益面は増加し堅調

売上高は計画通り大幅減少、利益面は改善

売上高、利益面が前期を下回る

商談対応中心

技術サービス別の状況

技術サービス	2006年3月期		2005年3月期		前期比 (ポイント)
	売上高(百万円)	構成比(%)	売上高(百万円)	構成比(%)	
エンベデッドソフトウェア	1,289	53.6	974	41.0	12.5
コアテクノロジー サービス	379	15.7	617	26.0	-12.8
技術アプリケーション	726	30.2	772	32.5	-2.4
ソリューションツール	12	0.5	9	0.4	0.1
合計	2,407	100.0	2,373	100.0	-
コアテクノロジー合計 (エンベデッドと技術アプリも含む)	598	24.9	701	29.5	-4.7

エンベデッドソフトウェアの構成比率が増加

コアテクノロジーが実用段階に入り、エンベデッドソフトウェアと技術アプリケーションに移行

期末（2006年3月末日）の状況

- **商談は豊富で稼働率が高いが、受注残高が前期を下回っている**
大型の案件の確定が、今期にずれ込む
商談量は豊富で社内の**稼働率は堅調**、立ちあがりは悪くない
- **研究開発・製品化の期末状況**

ユビキタス	OMA活動	VoIP (Voice over IP)などに注目
	地上デジタル放送技術	地上デジタル放送関連ソフトウェアの製品化を完了(製品名: airCube)
	ベクトル描画技術	ビジネス化に移行済み 製品化を概ね完了(開発コード: airsmartG)
	位置情報サービス技術	位置情報サービス(LBS)プラットフォームの製品化完了(製品名: airLook)
ゼロ・レイテンシー(瞬時応答) - - - Karearea開発		ビジネス化に移行済み
ロボット		ロボット関連諸団体での活動、新ビジネスを推進中

2007年3月期 通期業績見通し

2007年3月期重点テーマ

景況認識

- IT需要は、伸び率は大きくはないものの、**全体としては拡大**すると予想されている。
- 事業環境は、**需要は堅調**と予想しているが、今までのQCDに**セキュリティ**要求が加わると予想している。

重点テーマ - - - 企業価値を高め、信頼回復

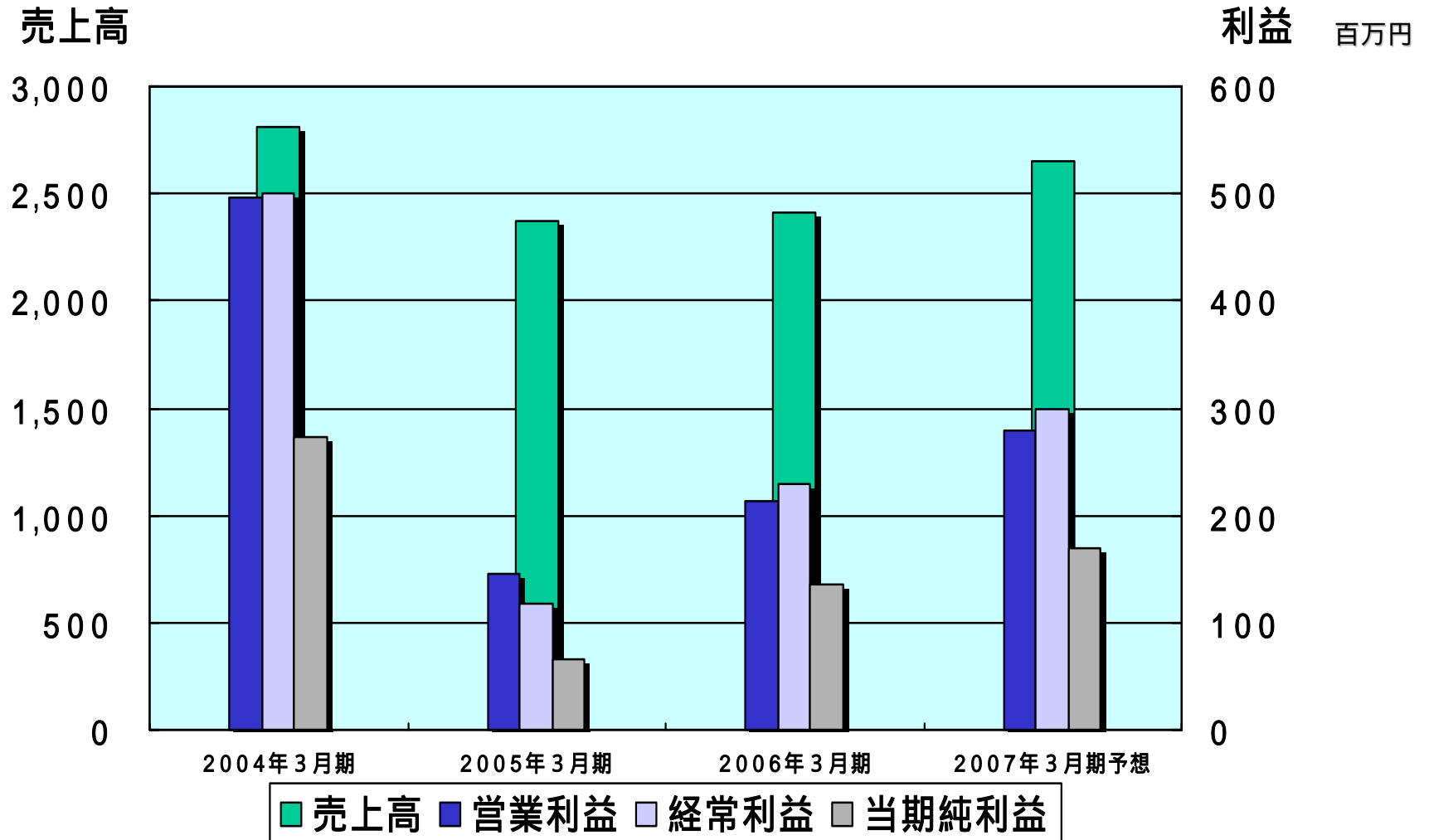
- 品質にこだわり、**不採算プロジェクトを発生させない**。
 - 第三者レビュー、内部統制機能、事業推進室によるP管理支援
- 「ユビキタス」を中心テーマとする主体的なビジネスで**新たな成長曲線**をスタートさせること。
 - 需要構造の変化に迅速かつ柔軟に対応する組織変更
 - ◇ 管理統制範囲の最適化
 - ◇ プロダクトビジネス推進部の新設、製販分離の営業体制
 - 社員教育の強化、外注体制の強化など

2007年3月期業績見通し

単位:百万円

	2007年3月期 見通し	2006年3月期 実績	増減比率
売上高	2,650	2,407	10.1%
売上原価	1,850	1,774	4.3%
売上総利益	800	632	26.6%
販売管理費	520	417	24.7%
営業利益 (営業利益率)	280 (10.6%)	214 (8.9%)	30.8% (1.7ポイント)
経常利益	300	229	31.0%
当期純利益	170	135	25.9%

通期業績の推移



2007年3月期B F別業績見通し

モバイルネットワークB F

主力の移動体通信事業者向けコアテクノロジーサービスは、要素技術開発の拡大が見込まれるが、基幹ネットワーク関連技術アプリケーションは減少、全体としては**減少傾向**

ワイヤレスB F

既存取引先に**新規取引先との取引が加わり**、**新要素技術の継続案件も受注好調**で携帯電話端末のエンベデッドソフトウェアビジネスは**拡大傾向**

インターネットB F

地上デジタル放送技術、ベクトル描画技術での案件受注、**技術アプリケーションの拡大**により、**拡大傾向**

社会基盤システムB F

社会インフラ更新技術アプリケーション商談は慎重に受注判断を継続、**位置情報サービス技術関連の技術アプリケーション**を加え、業績成長の安定化を優先し**現状を維持**

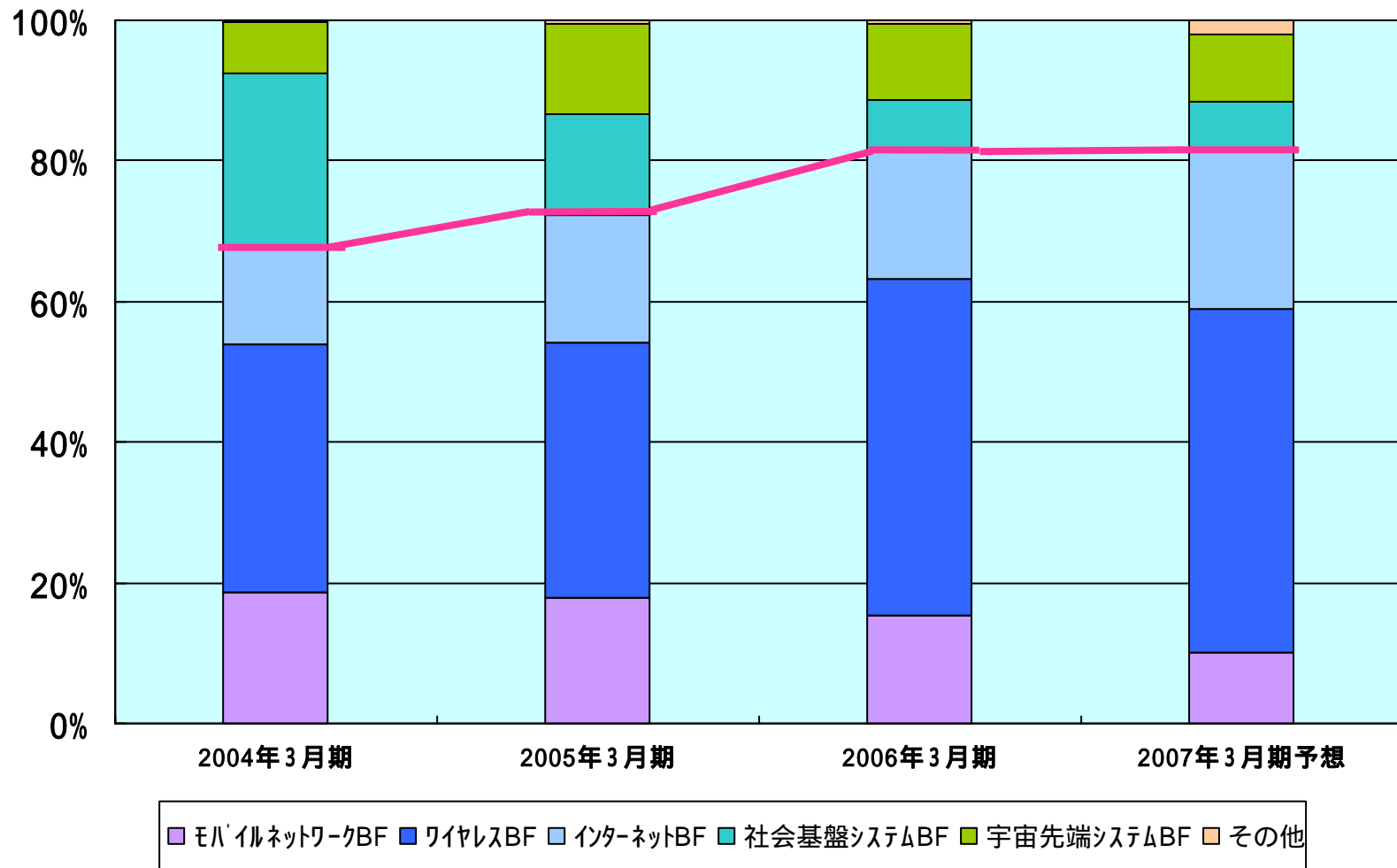
宇宙先端システムB F

今冬のロケット打ち上げは成功したが商談の立ちあがりが遅い、ロボット案件も加わるが、業績的には**現状を維持**

その他（ソリューションツールなど）

Karearea に、位置情報サービス技術、地上デジタル放送技術が加わり、**拡大傾向**

BF別売上高比率の推移見通し



主力BF - - ワイヤレスBF事業方針

売上高推移

	2003年3月期	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期 (予)
売上高(百万円)	885	991	862	1,154	1,295
全社に占める割合(%)	37.0	35.2	36.4	48.0	48.9

ビジネス環境

ナンバーポータビリティや新機能搭載に向けて需要は堅調
地上デジタル放送技術などのコアコンピタンスが活きる

ビジネス拡大に向けた課題(リスク)

携帯端末ベンダー同士の提携や海外向け携帯端末の撤退・進出などによる計画変動
携帯電話の高機能化により開発規模が巨大化し、品質問題が発生しやすくなっている
需要に対して、技術者不足、外注可能範囲が狭く稼働率が高い、緊急時の対応が不足
複数取引先に同系統技術を供給することから、セキュリティ要求が強く情報漏洩対策が必要

方針

コアコンピタンスを核とした主体的ビジネスで、競争優位の確保と維持
実効あるISMSの運用、セキュリティルーム増設など、情報漏洩対策の強化

株式会社セックの 事業戦略

事業環境認識

情報社会の本格化

代替手段なきコンピュータ依存社会

- コンピュータシステムの社会システム化
- ボーダレス化
- 社会の変化の速さ

- Q (高品質)
- C (低価格化)
- D (短期間開発)

QCD (高品質・低価格・短期間開発への対応)

&

I (イノベーションによる差別化)

セックの基本方針

QCD&I をスローガンとするお客様中心ビジネスの推進

- - - **QCD** (品質・コスト・納期) を窮め、**I** (イノベーション) で飛躍

■ **QCD** 対応力の更なる強化

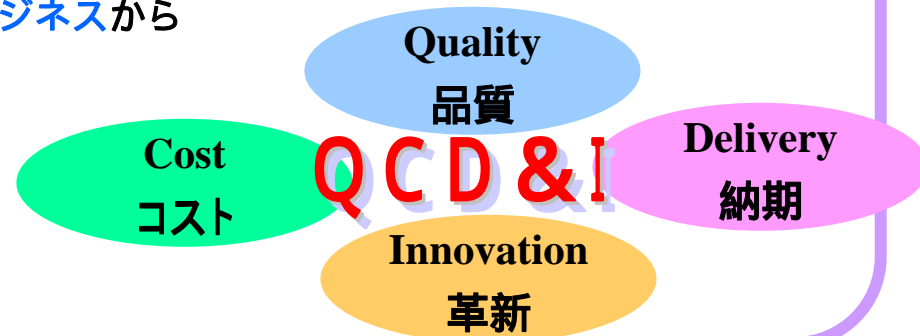
基本となるお客様満足度の獲得

■ **I** (イノベーション) により **IT** のメリットを提供

「**New Element to New System**」

- - 「**New Element**」による「**New System**」で不可能を可能に
それが最高のお客様満足度に、ビジネスの高付加価値化に繋がる

「**New Element**」を根っこに据えた**主体的ビジネス**から
ひいては**社員数に制約されない事業成長**へ



社員数に制約されない事業成長へ

「ニューエレメント」による主体的なビジネスで高付加価値化

研究開発・製品化活動で「ニューエレメント」の品揃え充実
コアテクノロジーサービスビジネス
製品販売ビジネス
製品適用リアルタイムソフトウェアビジネス

新たなビジネスモデルを追加

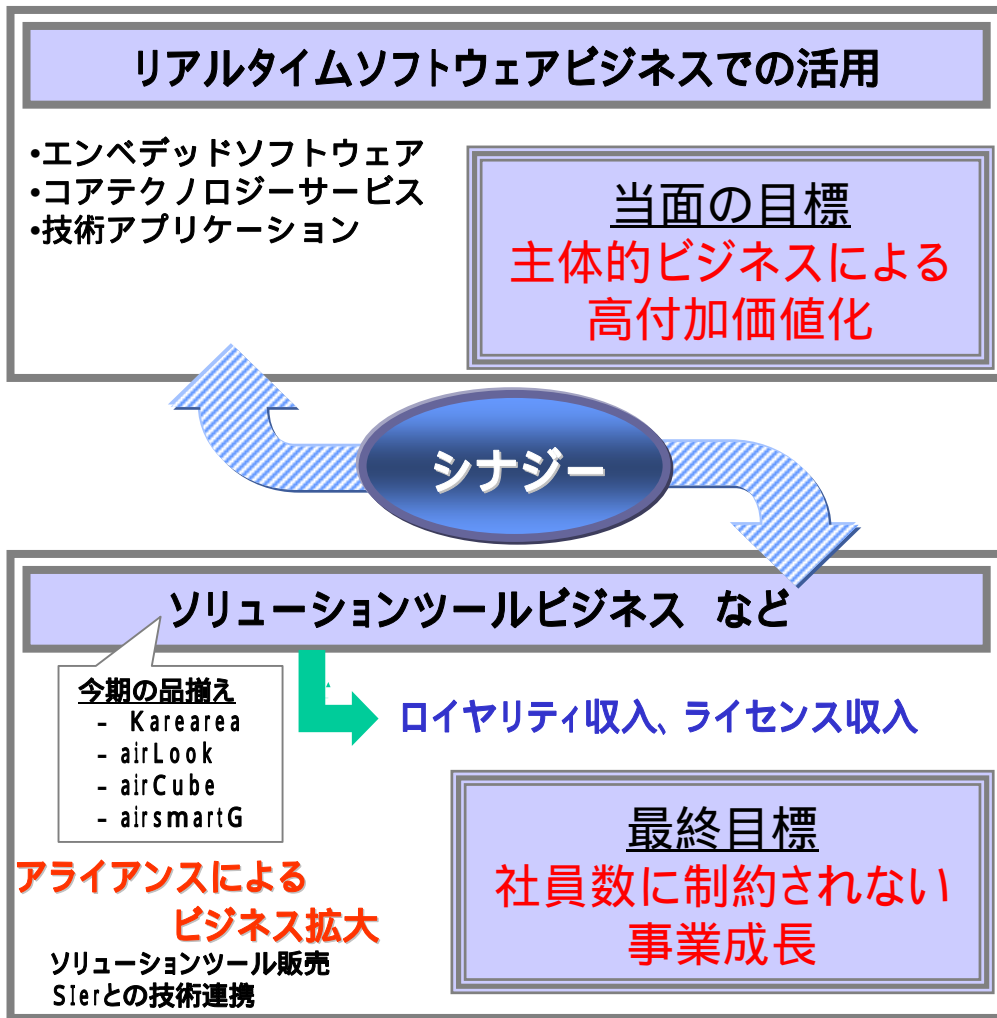
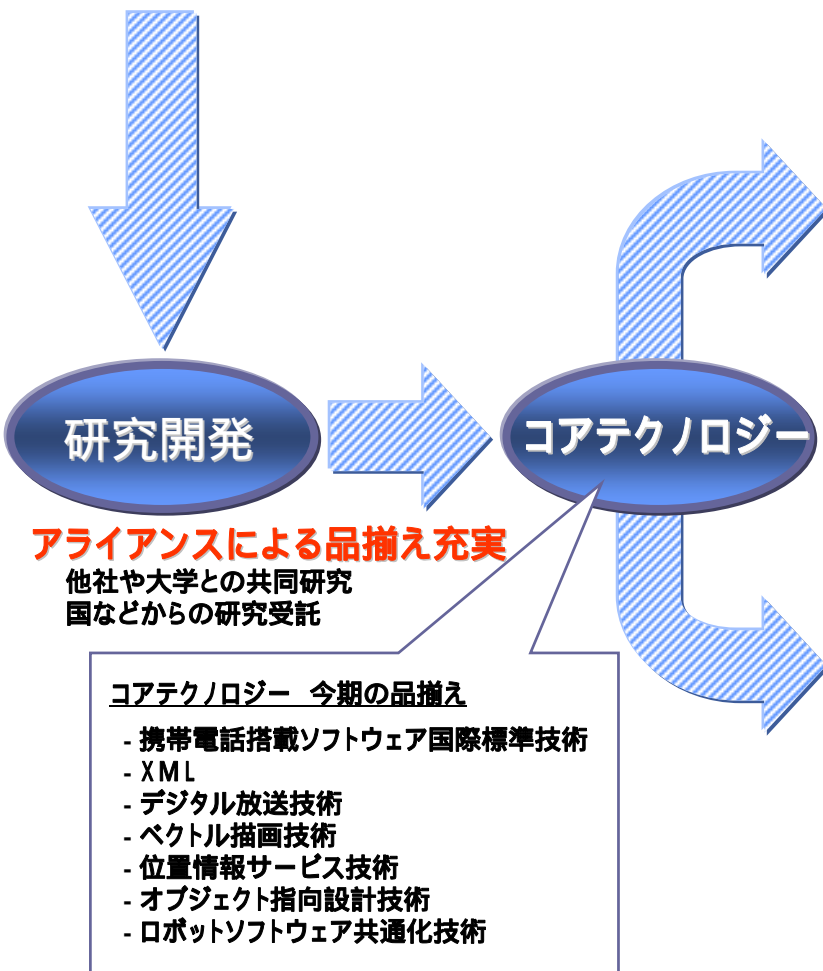
ライセンスビジネス
ロイヤリティビジネス
ASPなどストックビジネス

アライアンスを推進

ニューエレメントを充実するための他社や大学との共同研究
ソリューションツール販売での連携
営業面、技術面、製造面などでのwin-win連携

ビジネスモデルの変革

社員数に比例した事業成長



セックの技術サービス

ビジネスフィールド	技術サービス				その他 (ソリューション ツールなど)
	リアルタイムソフトウェア			技術 アプリケーション	
	エンベデッド ソフトウェア	コアテクノロジー サービス			
モバイルネットワーク		携帯電話端末搭載 ソフトウェア 国際標準技術	基幹ネットワーク システム	RealtimePower シリーズ Karearea airLook airCube air smartG	
ワイヤレス	携帯電話端末				
インターネット	車載端末 携帯情報端末	XML デジタル放送技術 ベクトル描画技術 位置情報サービス技術	Webシステム		
社会基盤システム			交通(航空,ITS),放送 防衛,物流,医療 位置情報サービス技術適用		
宇宙先端システム	人工衛星搭載機器 ロボット	オブジェクト指向 設計技術 ロボットソフトウェア 共通化技術	ロケット,人工衛星 天文関連システム		

研究開発・製品開発

ユビキタス (Ubiquitous)

携帯電話端末ソフト国際標準技術
(海外携帯電話ワイヤレスBFの1/4)

位置情報サービス技術

地上デジタル放送技術

ベクトル描画技術

ロボット (Robot)

ロボットソフトウェア共通化に向けた
活動及び研究

(日本ロボット工業会の派遣団の一員
としてOMGに参加)

ITRのビジネス化に向けた活動
及び研究

NEDOからの委託研究

製品化・ビジネス適用

製品の強化とビジネス適用

ゼロ・レイテンシー (Karearea)
位置情報サービス技術 (airLook)
地上デジタル放送技術 (airCube)
ベクトル描画技術 (airsmartG)

airLook とは 位置情報サービスを実現するプラットフォーム製品です。

airLook リリース 2005年10月

airLook 採用実績 前期3件 – 現在、約10案件進行中

- 防災システム(国土交通省関東地方局荒川下流河川事務所が主催する防災訓練で使用)
- 除雪排雪車運行管理システム(地方自治体)
- 緊急停止命令伝達システム(鉄道会社)

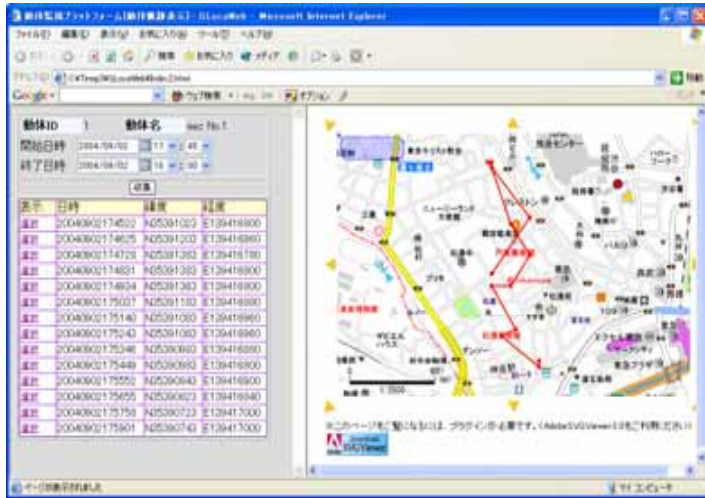
airLook のビジネス

- 製品ライセンス+カスタマイズ
製品ライセンス+システム開発(システム開発の規模は、製品の2倍から20倍)
- アライアンスの推進
商談開拓は複数社と協力して推進中

airLook の今後の展開

- ASP事業化研究(シリーズものの展開)
- 日本版E911への実装研究(無線緊急サービス向けLBS技術)

除排雪車ロケーションシステム



特定エリア進入離脱監視



安否確認機能付 災害情報管理システム



ユビキタス社会にあっては、「モノ」も情報の発信源
リアルタイムな位置情報、軌跡、履歴情報

位置情報サービス(LBS)

= GIS(地理情報システム) + GPS(全地球測位システム)

特徴 **オープン**素材を活用 LBSはインフラ **オープン**環境であるべき
既存のGISと連携可能 既存の資産を活かしながらGPSの情報を収容
通信コストを抑え、小さなセンタシステム

air Cube は

地上デジタルテレビ及びラジオ放送と通信の連携を可能とする技術です。

air Cube リリース 2006年3月

- Aプロファイル、Cプロファイル、P2プロファイル、ハイブリッド対応のBMLブラウザ
- デコーダ(DMUX,PSI/SI,DSM-CC等)

air Cube 搭載対象機器

- PC向け地上デジタルTV受信カード / 地上デジタル家電 / 携帯電話他
- 地上デジタル音声放送対応放送業務用受信機

air Cube のビジネス

- **ライセンス&ロイヤリティ、カスタマイズ ビジネス**
開発ライセンス(SDK: Software Development Kit)の販売
特定のAPI(Application Program Interface)やプラットフォーム、プログラムにおけるソフトウェア開発のためのツール集の販売
- **コンサルティングビジネス、試験ツールビジネス**
- **上記を包含した地上デジタルテレビ / 地上デジタルラジオアプリケーションの受託開発**
- コンテンツ制作支援(オーサリングツール、PCビューア等)

■ ビジネスの進捗状況

地上デジタルTV受信カード向け

地上デジタルTV受信カードメーカー向け試作機完成済、次への展開中

インターフェイス：CF(コンパクトフラッシュ)

PCカード、USB、SDIO、MiniPCI、SSP等も対応予定

OS : WindowsCE、WindowsXP、Linux

用途 : PDA、ノートPC、専用端末、カーナビゲーション、ゲーム機等

デジタル家電向け

デジタル家電プラットフォームベンダ向け試作機への搭載を準備中

携帯端末メーカー向け

携帯電話メーカー向け試作機への搭載を準備中

地上デジタル音声放送(ラジオ)対応業務用標準機

TBSラジオ & SKネットが共同開発した業務用標準受信機に採用

air smartG は

SVG (Scalable Vector Graphics) データを忠実にレンダリングする技術です。

air smartG 搭載対象機器

PC / 携帯電話 / 車載端末 / 情報家電 / 街角案内表示板など

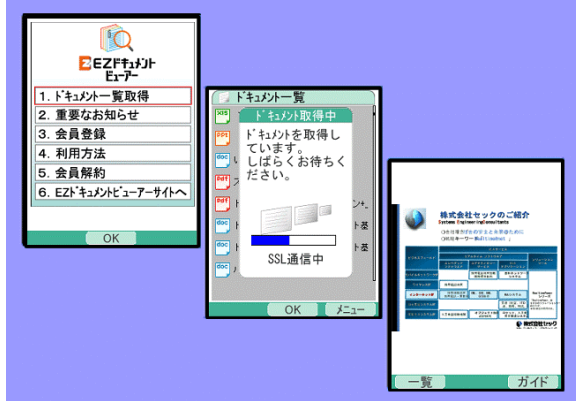
air smartG のビジネス

- カスタマイズビジネス
SVG 技術を活かしたアプリケーションの受託開発
- コンサルティングビジネス
コンテンツ制作及び各種コンテンツ変換サービスなど
- ライセンス & ロイヤリティビジネス
開発ライセンス (SDK: Software Development Kit) の販売

air smartG リリース計画

2006年上期中を予定

KDDI: EZドキュメントビューアーに採用



愛知万博ナビゲーションボードに採用



車載端末 (ITS世界会議愛知・名古屋に出展)



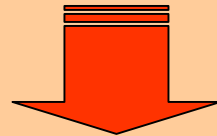
ストリートボード実証実験に採用



Kareareaは、世界最高速レベルのXML検索性能を発揮するだけでなく、業界で初めてXMLによる高速多次元集計を実現した、全く新しいタイプのXMLデータベース製品です。

XML適用の広がり

- **企業間取引**
 - ▶ RosettaNet
 - ▶ cXML
 - ▶ Webサービス
- **財務情報**
 - ▶ XBRL
- **放送**
 - ▶ BML
- **新聞**
 - ▶ NewsML
- **地図情報**
 - ▶ G-XML
- **マルチメディア**
 - ▶ SMILE
 - ▶ SVG
 - ▶ MPEG-7
- **音声**
 - ▶ VoiceXML
- **バイオ**
 - ▶ BSML
- **化学**
 - ▶ CML
- **数式**
 - ▶ MathML
- **RFID**
 - ▶ PML
- **医療**
 - ▶ MML
- **放送・新聞**
 - ▶ BML
 - ▶ NewsML
- **観光**
 - ▶ TravelXML
- **電子出版**
 - ▶ JepaX



大量のXMLデータを高速に処理する必要性

Kareareaの特徴

- ▶ 数百万ノードからの検索、ソート、集計がミリ秒オーダー
- ▶ チューニング不要、インデックス不要
- ▶ XMLによる最大4次元までの高速多次元集計
- **高機能**
 - ▶ ユーザ定義関数による高度な検索・集計
 - ▶ RDB感覚のソート、多段階絞り込み検索、検索結果の結合
 - ▶ 付属GUIツールによる定型業務構築
 - ▶ RDB連携、データの一括ロード/セーブ
 - ▶ 分散データベース機能
 - ▶ 開発用Java API



Kareareaの主な適用実績

特許情報統計システム
 衛星観測データリモートモニタシステム
 製品原価計算システム
 世論調査アンケート集計システム
 衛星テレメトリデータ分析(論文発表)
 官公庁向け変更・構成管理システム
 博物館システム

太陽観測衛星統合データベースシステム
 衛星観測データベースシステム
 仮想天文台データベースシステム
 製造業向け設計支援システム
 電子番組表システム
 商品企画データベースシステム

シナジー追究



() 位置情報をキーとした地上デジタル放送コンテンツの自動生成
 平時) バスなどの公共車のリアルタイムな位置情報や自治体公報
 などをテロップ放送で送出
 災害時) データ放送枠を利用して災害情報発信
 メリット) 放送には輻輳がないので確実に情報が届く

この資料についてのご注意

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、見通し、戦略など、及び将来の業績に関する見通しが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

ありがとうございました

ユビキタス社会の安全と発展のために

“ Realtime@net ”

本資料に関するお問い合わせ

株式会社セック IR室

電話 03 - 5458 - 7727